



当センターは、明治38年4月に日本赤十字社和歌山支部病院として発足し、平成17年に創立100周年を迎えた、県内で最も伝統のある病院です。地域の基幹病院としてプライマリケアから高度先進医療まで幅広い医療を実践しています。病院機能のより一層の充実を目指して平成19年10月から新本館建築工事に着手、平成23年5月9日新本館オープンしました。今後、既存棟の改修工事、駐車場建設等の関連工事を行い、平成24年夏には全ての工事が完了する予定です。

住所：〒640-8558 和歌山市小松原通四丁目20番地 TEL:073-422-4171(代表)

E-mail : [nisseki-w@kankyo.ne.jp](mailto:nisseki-w@kankyo.ne.jp)

URL : <http://www2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/>

### 1 日本赤十字社和歌山医療センターの特色

865床を有する地域の基幹病院でありながら院内各部局の連携が緊密で症例数も豊富なことよりプライマリケアから高度医療まで幅広い経験を積むことができます。地域がん診療拠点病院、地域医療支援病院、また高度先進医療として造血器幹細胞移植、生体・死体腎移植、臍帯血移植、角膜移植、体外受精、胚移植、顕微授精などを実施する一方で、和歌山県赤十字救命救急センターとして救急患者全例応需の方針のもと、一次から三次まで年間約30,000人の患者を受け入れています。

また、赤十字の使命である国内救護・国際救援活動を積極的に行なっております。

### 2 臨床研修プログラムの特色

内科研修では循環器内科、消化器内科および呼吸器内科を三本柱とし、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、神経内科の主要疾患も経験できるようにプログラムが組まれています。救急医療では軽症から重症までさまざまな症例を十分に経験できるプログラムとなっています。選択研修には11.5か月を充てており、これまで各研修医の希望に応じたプログラムが実施できています。

赤十字の特色である国際医療救援活動における拠点病院のひとつに指定されており、さらに地域住民の健康保持のための「赤十字県民大学」や「巡回診療」等、他の臨床研修病院では得られない赤十字ならではの活動を経験することができます。

また、平成20年度からは県南部の2病院（財団法人白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院〔白浜町〕および医療法人健佑会 串本有田病院〔串本町〕）、平成22年度からは北海道の小清水赤十字病院及び高野町の高野山病院と提携して地域医療・僻地医療の実際を体験するプログラムも開始され好評を得ています。

### 3 待遇

身分	研修医（常勤嘱託医）
給与	1年次 320,000円/月、2年次 350,000円/月 別途、書籍代として年250,000円支給
休暇	年次有給休暇、夏季休暇等あり

社会保険等	健康保険・厚生年金・厚生年金基金・雇用保険・労災保険に加入
宿舎	有り 16,000円/月(単身用)

#### 4 先輩ドクターからのメッセージ

##### ◇プログラム責任者 放射線科部長 筒井 一成

臨床研修制度が一新され6年。世間ではこの制度について色々な意見があるようですが、専門研修しか知らない私にとっては皆さん方がうらやましい限りです。そもそもこの臨床研修制度の一番の特徴はプライマリケアの重視ですが、皆さんは「プライマリケア」についてどんなイメージをお持ちでしょうか。私自身にも具体的なイメージがあまりなかったもので、つい先日後期研修医の一人に「プライマリケアって何？」と質問すると、「自分の専門を言い過ぎないことだと思います」という返事が返ってきました。これまで私達は専門性の追求こそが医師のあるべき姿と考え医師作りを行なってきましたし、マスコミも優れた専門家を「神の手」などと賞賛してきました。しかし、専門性をあまりに求めすぎ幅広い一般診療能力を十分育成してこなかったことが、現在の診療拒否・たらいまわしといった社会問題を生んできたようにも思います。きっとプライマリケアの定義はいろいろあるのですが、これからは専門家といえども幅広い診療能力を身につけていることが地域社会から求められるはず。そう考えますと後期研修医の「自分の専門を言い過ぎない」という言葉は言い得て妙と言わざるを得ません。

当センターの研修はこうした社会情勢に鑑み、しっかりと地域に根ざした generalist の育成を最大の目標としています（と私は思っています）。当センターはまぎれもなく地域の基幹病院・最終病院であり、症例（この表現には問題があると思いますが）がきわめて豊富です。しかもベッド数が多い割に各診療科の壁が非常に低く、幅広い研修が可能です。救急は全例応需を地域に対する社会的使命としています。そのため時として時間外の救急外来は野戦病院と化していますが、generalist 育成には格好の場です。また、初期研修終了後も多くの研修医が後期研修医として残り、屋根瓦方式が年々充実しつつあります。こうした研修理念に多くの研修医が共感され、研修の場として日本赤十字社和歌山医療センターを選択されることを私は心より期待しています。

##### ◇1年目研修医

研修一年目は内科6ヶ月間、救急・ICUを3ヶ月間となっています。大規模の病院なので患者数はもちろん多いですが、研修病院としての歴史も長いので指導体制は充実しており、十分に上級医と治療や病態について話し合うことのできる環境は整っていると思います。担当患者数は適度で、教科書や文献を調べる時間を取ることが十分可能です。当直は一年目研修医と3年目以降の上級医がペアとなって診察にあたります。月に3回程度回ってきます。当院は和歌山市内はもちろん、市外の重症患者さんの多くを引き受けますのでCPA患者数も多く、一晩のうちに軽症から重症まで様々な症例を経験することができます。重症患者でなければ初診から診察・検査を一通り自分でを行い、病態を分析した上で上級医に相談するといった形にすることもでき、臨床能力を鍛えることができる病院です。救急疾患を研修医のうちに数多く診たいと思う人にとってはこの病院の魅力のひとつだと言えます。総じてバランスの取れた研修ができる病院だと思います。

##### ◇2年目研修医

はじめまして、これを読まれている方は研修先の病院を探している最中だと思います。そのような方々に向けて自分の体験なり今思うことを書かせていただきます。

私が日赤和歌山医療センターを選んだ理由は、この病院が救急の充実した病院で地域の基幹病院として非常に充実していたことです。働き始めてから知ったことですが、和歌山～大阪南部にかけての一次から三次までの全ての救急患者を受け入れ拒否することなくいつでも診療を行っており、スタッフの方共々、大変な面もありますが本来の医療を行っている実感があります。当然のことながら救急外来の充

実度は言うに及びません。

もう一つ、研修をしていて感じることは同じ時期に働き始めた研修医同士というのは同じような失敗をしたり、疑問を持ったりしているということです。そのような時に相談したり、あるいはすでに解決策を持っている同僚がいるというのは非常に心強いと思います。当院では15名前後が毎年研修医に採用されますが、そういう環境が出来るのにちょうどよい人数ではないかと感じています。

以上簡単ではありますが、研修先を決める上で少しでも参考になればと思います。

## 5 交通アクセス情報

最寄り駅	病院から 車で30分以内	備 考
JR和歌山駅	○	JR和歌山駅からバス（約20分）またはタクシー（約15分）
南海和歌山市駅	○	南海和歌山市駅からバス（城北橋経由約10分、本町経由約20分） またはタクシー（約10分）

\*最寄りのバス停は「日赤医療センター前」です。

JR和歌山駅経由の和歌浦口～関西国際空港間の空港リムジンバスも発着しています。

日赤医療センター前から関西国際空港までの所要時間は約60分です。

（交通事情により、所要時間が若干前後することがあります。1日の発着本数は空港リムジンバスのホームページでご確認ください。参考URL: <http://www.wakayamabus.co.jp>）